

2022年度秋季卒業式学長告辞（2022年9月26日）

学位記を授与された学部卒業生、大学院修了生、博士論文提出による博士号取得の皆さん、広島市立大学を代表しまして、心よりお祝いを申し上げます。また、皆さんのご家族、ご友人、そして指導教員の先生方にもお祝いと感謝を申し上げます。本日、学部卒業生3名、大学院博士前期課程修了生1名、論文博士学位授与1名の皆さんを社会に送り出すことができましたことは、大学としても大変、うれしく思います。

学部卒業、大学院修了、そして学位論文提出による博士学位取得には、大変な努力と研鑽が求められますが、本日、卒業、修了あるいは学位を取得された皆さんはそれらに加えて、一昨年2月以来の新型コロナウイルス感染症拡大に伴う大学の教育研究環境の制約、国内外の学会等の開催中止など、大変なことも多かったと思います。そのような状況を克服して本日の卒業式を迎えられた皆さんの努力に改めて敬意を表します。

皆さんは本学での学びと研究を通じて、学問とは何か、研究とは何か、ということを理解されたと思います。皆さんがこれからどんな道を歩むにしても、皆さんが本学で学んだ学問は、きっと皆さんの今後の人生に役立つはずです。これから企業人として会社で働くにしても、大学院に進学しさらに勉学を続けるにしても、大学等の研究機関で研究者の道を歩むにしても、本学で学んだ知識と技能を活かして、広く社会の発展に貢献することを期待します。

また、本日、大学院博士前期課程を修了、あるいは博士号を授与された皆さんは海外から日本に留学されて、本学で学ばれました。ますますグローバル化が進むこれからの時代において国際的に活躍されると共に、皆さんの母国と日本が互いの理解を深め、さらに良い関係を築くことに貢献されることを期待します。

さて、皆様が本学で学ばれていた期間はそれぞれで違いますが、特にこの数年間は大きな変化がありました。2019年末に確認された新型コロナウイルス感染症は瞬く間に世界に広がり、世界では650万人以上、日本国内でも4万人以上が死亡し、20世紀初頭のスペイン風邪に匹敵するパンデミックとなりました。現在もパンデミックは終了していません。新型コロナに加えて、本年2月にはロシアによるウクライナ侵攻が起これ、ウクライナ・ロシア双方で数万人ともいわれる戦死者を出しながら、いまだに戦争終結の見通しが立っていません。また、コロナ禍とウクライナ侵攻により、世界の分断が急速に進み、世界経済も大きな打撃を受けています。

こうした混沌とした状況の中で、皆さんは社会に巣立つこととなります。世界中の人々は不安におののき、少しでも未来がどうなるかを知りたいと、インターネットを検索し、あるいはSNSで流れてくる根拠不明な言説に飛びつく人も多くなっているようです。

私はこうした不安に駆られた人々の行動は決して望ましいものではないと考えます。むしろ、こうした人々が増加すればするほど、社会の未来は益々不安定になるでしょう。大学という高等教育機関で教育を受け、学士、修士、あるいは博士の学位を修得した皆さんには、幅広い教養と自分の専門に根差した的確な判断と行動を行うことができる人になることを強く希望します。

そのためには、偏見に捕らわれることなく、幅広い視野を持つことが極めて大切です。この点に関連してアインシュタインの言葉がありますので、ここに紹介します。

「新聞と現代の著作しか読まない人は、分厚い眼鏡をかけた強度の近眼のように見える。自分が生きている時代の偏見や流行に完全に埋没していて、それ以外はまったく目に入らないからだ。」(アルベルト・アインシュタイン)

現代であれば、「新聞と現代の著作」に加えて、SNSとインターネット検索を加えるのが適切でしょう。いずれにしても、目の前にある課題に対して、近視眼的で時代に束縛された視点だけで解決策を論じることは、かえって課題解決から遠ざかるだけでなく、新たな対立と危機を招く可能性さえあります。

現在、ワクチンの普及で明かりは見えてきたとは言え、世界は今も新型コロナウイルス感染症の渦中にあります。新型コロナウイルスの感染拡大により社会は大きく変貌し、これまでは当たり前だったことが実は当たり前ではないことに多くの人々が気づき、将来に不安を感じ、動揺も広がっています。そして、今後も新型コロナやロシアのウクライナ侵攻に匹敵するような混沌がこの世界を襲うかもしれません。

しかし、そんな時にこそ、アインシュタインの言う「強度の近眼」とならないことが求められます。「強度の近眼」とならないための有効な処方箋として、私は古今東西の名著に日頃から親しむと共に、様々な人々と深い対話をするをお勧めします。書物と対話の中から、世界に対処するための自分なりの方法論が見つかるはずです。ネット空間に流布する根拠不明な言説に惑わされることなく、日々、幅広い視点から研鑽を積み、この混沌とした世界に果敢に挑戦して下さい。皆さんのこれからの活躍を期待します。

最後に、皆さんの将来が希望に満ちた明るいものになることを祈念しまして、学長告辞とします。

本日はご卒業、ご修了、学位取得、まことにめでとうございます。

2022年（令和4年）9月26日
広島市立大学長
若林 真一